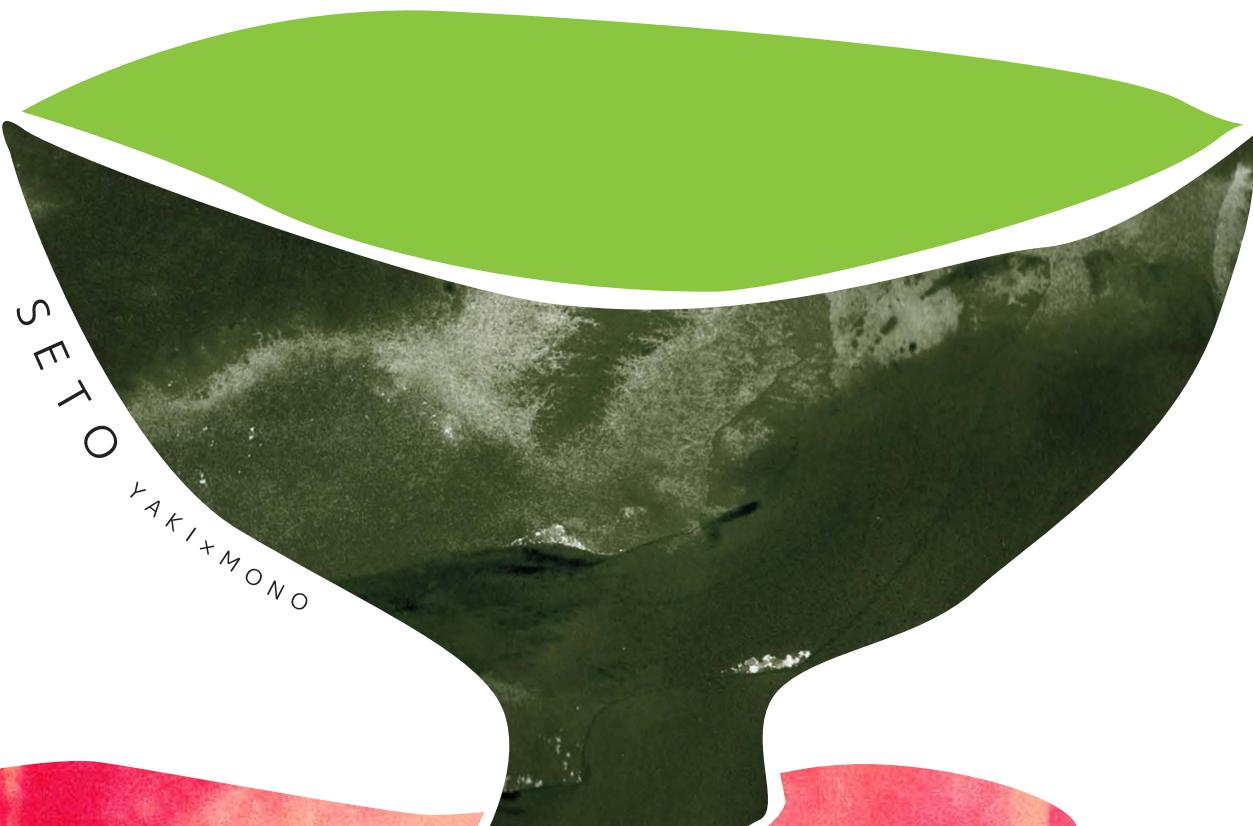


setoyaki style book

セトリ工

瀬戸から生まれるやきもの生活。



セトリ工 創刊号

発行 / 瀬戸焼振興協会 〒489-8701 愛知県瀬戸市追分町 64-1 TEL : 0561-88-2651
E-mail:kogyoshinko@city.seto.lg.jp Web. <http://www.setoyakishinkokyokai.jp/>
企画・編集 / 日笠 真理・岩田 舞海 || 写真 / カメイヒロカタ || 意匠 / studio05

創刊号

SETO

YAKI : つくる

X

つかう : MONO

「せとやき」と「せともの」。

呼び方はちがつても、

この瀬戸のまちから生まれた「やきもの」です。

「せとやき」と聞いたら、ドキドキ何と出逢えるか。

古窯の里としての伝統も、新風を呼び込む創作も、手に取った時にこそ伝わる、「もの」の力がある。

「せともの」と聞いたら、ワクワクどう使おう？ もつと自由に、もつと楽しく、もつと軽快に。そんなイメージが湧くようになつたらいいな。

「せとやき」をつくる。
「せともの」をつかう。

つくり手とつかい手をゆるやかに結ぶ新しい世界を
『セトリエ』から四季折々に発信していきます。





加藤眞一さん

馬の目皿は、江戸後期（十九世紀初）に街道筋の茶屋などで使

われはじめ、それが生活用器として広まり、瀬戸・洞地区を中心多く生産されるようになった。

瀬戸市中心部の銀座通り商店街を抜けると、かつて窯で使われた棚板、ツク、エンゴロ等を積み重ねた壁のある坂道へと続き、その途中で渦巻き模様のお皿が並ぶ壁と出会う。湯之根町にある「丸岩製陶所」の七代目当主

加藤眞一さんは、七〇の齢を超えてなお、現役で伝統の「馬の目皿」を手がける全国でも稀少な存在。

「馬の目皿」の魅力。
わかれはじめて、それが生活用器として広まり、瀬戸・洞地区を中心多く生産されるようになつた。

その後の時代も、度々ブームが興り、骨董好きやコレクターの間の人気も高い。この湯之根町でも、昭和初期までは盛んに「石皿（いしがら）」と呼ばれる皿や馬の目皿が焼かれていた。加藤さんはこの伝統を絶やすまいと一九五五年目皿を焼き続けている。

「馬の目皿」を手がける全国でも稀少な存在。

「馬の目皿」の魅力。
わかれはじめて、それが生活用器として広まり、瀬戸・洞地区を中心多く生産されるようになつた。

その後の時代も、度々ブームが興り、骨董好きやコレクターの間の人気も高い。この湯之根町でも、昭和初期までは盛んに「石皿（いしがら）」と呼ばれる皿や馬の目皿が焼かれていた。加藤さんはこの伝統を絶やすまいと一九五五年目皿を焼き続けている。

「馬の目皿」の魅力。
わかれはじめて、それが生活用器として広まり、瀬戸・洞地区を中心多く生産されるようになつた。

その後の時代も、度々ブームが興り、骨董好きやコレクターの間の人気も高い。この湯之根町でも、昭和初期までは盛んに「石皿（いしがら）」と呼ばれる皿や馬の目皿が焼かれていた。加藤さんはこの伝統を絶やすまいと一九五五年目皿を焼き続けている。

瀬戸焼：「馬の目皿」 岩右衛門窯 丸岩製陶所 当主 加藤眞一さん／朝採れ野菜：「あんのう芋・むらさき芋・落花生」 農業家 住珠紀さん



瀬戸アルチザン探訪 器も野菜も、つくり手に会いたい

つかい手はつくり手をつくり手もつかい手をもつと、知りたい。

「はんを食べる。その手にはお茶碗が、食卓にはお皿があり、それに盛られた料理を味わう。その食器や食材は、どこのだれの手によつてつくられたものなんだろ？あ、これい、な、おいしいな、と感じたら、そのつくり手が気になる、知りたくなる。最近は、生産者の名前や農法までわかる安全でおいしい野菜も増え、直接購入もしやすくなつてしまつた。そんな感じで、やきものも窯元や陶芸作家の顔や思いが見えてくると、きっともつと、味わい深くなる。つくり手だつて、つかい手の声や顔が見えたら、きっともつと魅力的なやきものが生まれてきそう。

そんなきっかけを楽しみに、「瀬戸ならではのアルチザン＝丘」を探し訪ねてみよう。



地元の人気が気さくに声をかけて手伝ってくれるのが嬉しいですね。野菜は、「道の駅瀬戸しなの」や「長久手あぐりん村」に販売しています。



岩右衛門窯（いわえもんがま）
丸岩製陶所
愛知県瀬戸市湯之根町34
TEL: 0561-82-4514

住 珠紀さん

あら、たのしい くらべ盛り

菊の花をかたどった菊皿。

そのルーツをたどると、

もとは懐石料理の器として

デザインされたものだとか。

伝統的な格の高いデザインなのに、

なぜか可愛らしさを感じる器。

表面を彩るのは、餡のよう

つやかな茶褐色の釉薬「餡釉」。

そんな菊皿にあわせるなら、

「豆乳抹茶パンナコッタ」と

「秋刀魚の黒胡麻甘辛ええ」。

女子スイーツと男の晩酌、

気分で選べるのがうれしい器。



あまくちさん



からくちさん



● 餡釉 (あめゆう) 菊皿 ●



喜多窯 霞仙 (きたがま かせん)

● 十二代当主 加藤裕重さん ●

尾張徳川家御用窯の歴史を持つ赤津地区にて、
創業三百五十有余年の歴史を持つ窯元。素地に
使われるのは主に自家製(裏山採取)の赤津山土。

—— 器の案内人 目笠真理

陽だまりにほっこり、昼下がり。夜長にくつろぐ、ひととき。光と灯りとがらがう
ように、器もうつろう時間の中で、その時々の表情や季節の景色を映します。

手につつんでほっこり、あつたか器。



湯気、立ち上る冬の日。「やきもの好きになったきっかけは、瀬戸！」という楽しいメンバーが、お気に入りの器を持ち寄ってお茶会をしてみました。思いを寄せて、人を寄せて、が楽しいから器を寄せて、が楽しいから【ヨセトコ茶会】。

大切そうにくるまれたお茶碗やカツappaたち。でてくるでてくる。どれも個性的、十人十色で華やぎます。有田聰子さん（春日井市）の手には、「千草（とくさ）」と呼ばれる縞模様のお茶碗。

「昔ながらの登り窯を持つ『二里塚本業窯』で、手にした瞬間にすっぽりとなじんで一目惚れ。せともの祭でコレ！と再会で

【瀬戸の窯元を巡るイベント】に参加し、自分でもろくろを廻す体验をしたのが入口でした。ネットで見て好み！と感じて買うこともあるけれど、つくり手の仕事場を見ると、やっぱり味わいも変わってきます」。

伊佐治窓香さん（尾張旭市）。「瀬戸で出逢ったと言えば、三次五三（みよしつそう）さんの器。ギヤラリーやカフェなどで、

白色の器を選んでくれたのは、伊佐治窓香さん（尾張旭市）。「瀬戸で出逢ったと言えば、三次五三（みよしつそう）さんの器。ギヤラリーやカフェなどで、

「窯元に直接行きたいなと思つても、イベントでもない限り、なかなか気軽にに行けないですよねえ」（伊佐治さん）

「うんうん、皆さん共通の悩みはそこ。」「うつかり割っちゃった時に、なんか修復できないかと電話してみたことはあります（笑）」（有田さん）

「作家さんに説明してもらうと、その器をもつと深く好きになれると思うな」（岩橋さん）

「新しい器を選べて、実際に料理を盛つたり食事して使つてみることでのける機会があるといいな」（星野さん）

それはテンション上がりそう！でも、お気に入りの器が増えすぎちゃって、困ることってないですか？」

「新しいものを買つてきた時、しばらくはつい見つからないよう隠しちゃいますね（笑）」「あつ、うちもうちも」

え、みなさんは隠すんですか。そのうち隠し器を、寄せてどこ！“

「手前から、星野さん、岩橋さん、有田さん、伊佐治さん



作家さんについて知る機会があると、ますます楽しみも親しみも深まりますね」。愛おしそうに添えた手から、その器の使い心地が伝わってきます。

薄紅色がほんのり浮かび上がるお湯飲みを、迷わず一点のみお持ちくださったのは、星野仁美さん（名古屋市）。

「料理教室のアシスタントでいろいろな器を使つて、いろいろな器を使つて、内側にさりげなく絵付けがしてあるなど、はつとさせられるデザインがあつたり。そんな意外性も、器選びの新鮮なときめきのひとつかも。

「揃えではなく、旅先などで気に入つたものを一点ずつ選んで集めていくのが楽しいんですよ」。たしかに、その土地にそのやきもの有り！瀬戸には多彩な「やきもの」がそろつていて、楽しみは尽きません。

作家さんについて知る機会があると、ますます楽しみも親しみも深まりますね」。愛おしそうに添えた手から、その器の使い心地が伝わってきます。

薄紅色がほんのり浮かび上がるお湯飲みを、迷わず一点のみお持ちくださったのは、星野仁美さん（名古屋市）。

「料理教室のアシスタントでいろいろな器を使つて、内側にさりげなく絵付けがしてあるなど、はつとさせられるデザインがあつたり。そんな意外性も、器選びの新鮮なときめきのひとつかも。

「揃えではなく、旅先などで気に入つたものを一点ずつ選んで集めていくのが楽しいんですよ」。たしかに、その土地にそのやきもの有り！瀬戸には多彩な「やきもの」がそろつていて、楽しみは尽きません。



男メシ、弁当男子ときたらやっぱりお次は…
いよいよ「器男子」の時代がやってきた！?
瀬戸で見つけた自慢のウツワを紹介！

磯谷祐介さん(ラジオDJ・名古屋市)
「仲間と楽しむパスタランチ」

白 炊歴は8年、友人が集まった時に料理を作る機会は多いですね。そんな時、ちょっと器に気を遣うだけで、グーンと料理が格上げされるじゃないですか。「コイツなかなかやるな」って思わせたいという見栄からかな、僕が器に凝りだしたきっかけは（笑）。



瀬戸 戸を訪れる度に増えていった器たち。
さりげなくアクセントになる絵付けや
色合いが好きですね。
刷毛目(はけめ)がお気に入りのこの皿には
実家で採れた栗と渥美半島の保美豚を
使った“地産地消パスタ”で。
うん、今日も大満足！



ボクはコレで
いただきま～す！

夫婦でカップルで贈り愛

ハートにキラッとときめく、彼女への初ギフト

MAME
ZARA



赤津の窯元『松山窯』の松原一茂さんが、教えてくれました！

Q. 気負わずさりげなく贈れて、センスの光るセトヤキ・ギフトを教えて



A. 豆皿はどうでしょう。

いろいろ選べて価格もお手頃なので、初めて贈る場合もハズしにくいと思います。伝統の織部をモダンな図柄にアレンジしたものなど、サイズもバラやうざぎ、キティちゃんの絵付けも、女性に人気です。

松山窯(しょうざんがま)
愛知県瀬戸市西窯町55 TEL: 0561-82-4856 <http://www.shozangama.com/>



写真提供：水野このみさん（瀬戸市）
「刺し子、仕覆、数寄屋袋等をつくっています。」

器を愛する手の仕事

一針一針、かたちあるものを伝え継ぐ“心づかい”。
「お気に入りの器を大切に使いたい」という気持ちを、
和の手仕事を中心にみつけました。

しふく

「仕舞い」のこころ：仕覆

毎日の暮らしの中で気がねなく扱える、生活用器。最近では食洗機や電子レンジ、オーブンOKという食器も増えてきました。そうした便利さもせともの魅力。一方で、ふだんはそうそう気軽に使えなくとも、持つているだけでうれしい、手をかけることで贅沢な気持ちになれる「とつておき」の器というものもあります。

特に土ものと呼ばれる陶器は、どうしても磁器にくらべて欠けやすい。だからこそよく大切に包んで守りたい。茶道では、茶入や茶碗を「仕覆(しふく)」という

袋に納めます。瀬戸市在住のお針子作家・水野このみさんは、そこにヒントを得て、お気に入りの作家さんの器をしまる袋を大好きなアジアの布で縫い始めたのだそうです。『飾つたりするのにも、ほこりが彼ら、見た目も美しく楽しい。大切なものを守る、ものを大切にすること、上物の裂(きれ)で着せ替え人形のように楽しむあそび』これが生みだした、日本人特有の美しい所作のひとつですね』。

エキゾチックなバティック染めには、日本の伝統色の組紐(くみひも)をあわせて。『紐は京都の専門店からお取り寄せして。柄あわせや色あわせが美しいんです。器の形にあわせてひとつひとつ型紙をつくるのが、スマートに着せるコツでしょうか』。棚の奥に眠らせておくのではなく、こうして手の仕事をほどこすこと、器たちがさらにお洒落(しゃらく)に、小粋にドレスアップ。しまう、といふ字は「仕舞う」とも書き、能の舞台でも使われる言葉です。魅せる楽しみも、忘れないですね。



同系色ばかりでなく、違った色目を合わせてみるのも、新たな楽しさが発見できます。

(写真提供：水野このみ)

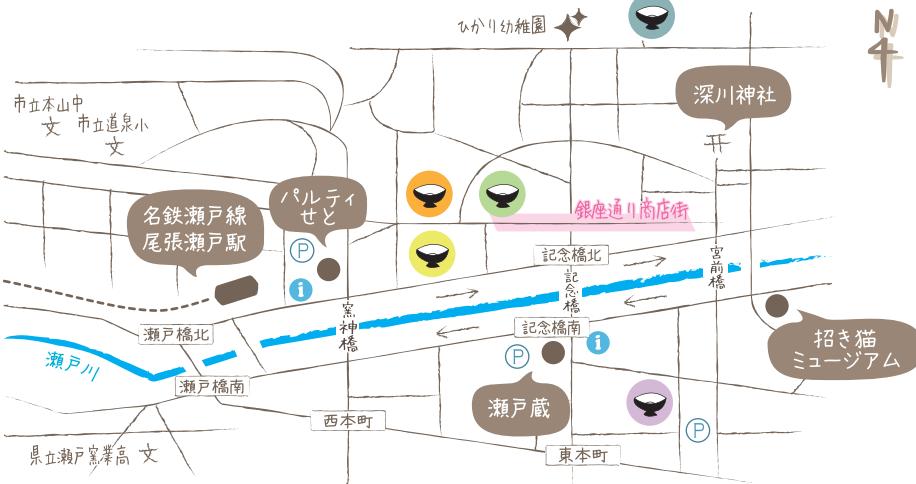
てしごとあそび

大切なものを結ぶもの。外国ならリボン、日本では…？ 色とりどりの細い絹糸や綿糸を、組み台を使ってこまやかに編み込んで織り上げた「組紐」。奈良時代に仏教とともに伝来し、当時のものは法隆寺や正倉院にも収蔵されている日本の伝統工芸のひとつ。数十本合わせた糸の束をいくつかの玉に巻き、斜めに交差させながら組み上げていくので、伸縮性があるのが特徴です。「角打紐」「平打紐」「丸打紐」の3種類があり、京都、江戸とならんで伊賀の組紐も有名。最近では携帯ストラップやアクセサリーとしても人気、ナイキのシューズにも採用されているのだと。和の色からカラフルな組み合わせまで、無限のバリエーションが楽しめちゃうのです。

SETOreet MAP

おうちカフェの器、さがしにいこ。

あったかいひととき、お気に入りの器でちょっとおすましあうちカフェ。
伝統の瀬戸焼から、人気カフェのあのシリーズ、遊びゴコロいっぱいの若手作家の新作等々…。
思わずブログやメールで見せちゃいたくなる、そんな器をさがしに“瀬戸さんぽ”。



どこか懐かしい、ガーリーな雑貨の宝庫

築100年古民家の格子戸を開けると、季節を彩るディスプレイやどこか懐かしいアンティークな空間について引き込まれてしまう。女性作家たちによるはんなりと愛らしい花の絵付けの器が人気です。器のほかにもカフェモードにぴったりの雑貨など、お気に入りがきっと見つかるはず。

Gallery もゆ

愛知県瀬戸市朝日町48-1 TEL: 0561-85-8100
営業時間: 10:00 ~ 18:00 定休日: 水曜日
<http://d.hatena.ne.jp/setomoyu/>



季節ごとの“のれん”が目印、作家ものが充実

瀬戸を中心に戸主・小塚洋子さんの心もる目利きで選ばれた陶芸作家の作品が揃う陶器・茶碗のお店。手に取って、その個性やイメージ、作り手の思いや考えを感じてほしい、伝えたい。「白、黒、抹茶…」と、多彩な瀬戸焼の釉薬の楽しさを細やかに教えてくれます。

手しごとや 阿ん

愛知県瀬戸市朝日町47 TEL: 0561-82-3591
営業時間: 10:30 ~ 19:00 定休日: 不定休



アーケード街の中に、古民家カフェ！？

陶製スピーカーから流れるジャズ、展示作品の器でいただく珈琲やお抹茶には「ちんすこうチーズケーキ」や「季節限定スイーツ」を。そんな瀬戸的カフェスタイルを探すなら、陶芸・ガラス作家約30名の作品が並ぶギャラリー&ショップがおすすめ。2階の企画展も見逃せません。

商店街ギャラリー かわらばん家

愛知県瀬戸市朝日町36 TEL: 0561-89-6775
営業時間: 10:00 ~ 18:00 定休日: 水曜日
<http://setomachi.com/kawarabanya/>



若手作家との交流サロン的ギャラリーショップ

タイル工場の一画から始まった、若手陶芸作家達の工房「やきもの長屋」と併設。作家自らが運営する直営ギャラリーとして、瀬戸近郊の作家だけでなく、他地域の陶芸作家との交流や多彩な企画展・イベントも人気。やきものの「今」をキャッチするなら、ぜひここへ。

ギャラリー くれい

愛知県瀬戸市湯之根町68 TEL: 0561-82-0847 (Pあり)
営業時間: 11:00 ~ 17:00 定休日: 火～金曜日 (祝営業)
<http://galleryclay.web.fc2.com/>



お気に入りの作家・作品をチェック！

旧瀬戸陶磁器陳列館の大正モダン様式を復元した展示棟では、注目の気鋭作家の企画展等を開催。陶芸・ガラスによる自由な発想と創造的なものづくりをテーマに、研修生の受け入れなども行っています。いろいろな器を手にして使って感じられるカフェコーナーも併設。

瀬戸市新世纪工芸館

愛知県瀬戸市南仲之切町81-2 TEL: 0561-97-1001
営業時間: 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)
定休日: 火曜日・1/1~4・12/28~31

※月1回程度午前まで休館あり
<http://www.seto-cul.jp/new-century/>



セトリエ動物園

瀬戸のまちを歩いていると、あちこちでユニークな陶製の動物たちとばったり。招き猫以外にも、かくれた人気キャラクターがいっぱい！今回歩いた銀座通り商店街を西に抜けた坂道にある「古民家久米邸」では、なつかしい看板の前にどっしどしつく坐った狛犬？シーサー？くんがお出迎えてくれたよ。



瀬戸市朝日町49-3
(尾張瀬戸駅から東へ徒歩4分ほど)

セトリエ字引01

この号でご紹介した記事中の地名や用語等をチラシ解説。

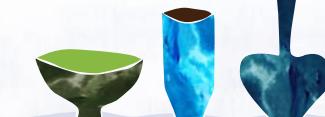
【セトリエ】①瀬戸+アトリエ=瀬戸のまち全体がやきものの文化を生み出すアトリエという意味。②瀬戸焼の魅力を紹介するフリーペーパー。つくり手とつかい手をゆるやかに結ぶ新しい世界を、四季折々の旬情報とともに提案・発信。	【窯元(かまもと)】陶磁器を窯で焼いて作り出すところ。陶磁器を作る人。
【銀座通り商店街】深川神社の門前町として発展した全長約200メートルのアーケード商店街。レトロな雰囲気で歩くだけでも楽しい。	【十草(とくさ)】山野草「木賊(とくさ)」をモチーフにした日本古来の縦縞模様の総称。多色を使用した色十草もある。
【石皿(いしがら)】江戸時代後期、日常的に「煮染皿」として使用されていた本業焼の皿。	【民藝ブーム】「良い工芸は手仕事から生まれる」として、1950年代後半から70年代にかけて柳宗悦(やなぎ・むねよし)達が提唱した民藝運動より。
【陶器】「土もの」と言われ、陶土とよばれる粘土が主な原料。	【貫入(かんにゅう)】焼成後の冷却時に陶土と釉薬の収縮率の差によって生じる表面(釉薬)のヒビ状の模様で、割れやキズではない。使い込むにつれ独特の風合いが深まる。
【磁器】「石もの」とと言われ、陶石を粉碎した石粉が主な原料。	【刷毛目(はけめ)】陶磁器の伝統技法のひとつ。白土を刷毛で素地に塗り、透明な釉薬をかけたもの。
【釉薬(ゆうやく)】うわぐすり。やきものの表面を被っているガラス質の部分。	【豆皿】直径6cm~10cm程度の小皿の愛称。「手塩皿」とも呼ばれ、塩、しょうゆ、味噌やお漬物の他、箸置きやアクセサリー入れとして使うことも。
【ろくろ】陶磁器成形用の旋盤。回転する盤上に粘土を置いて旋回させながら成形する回転台。	【織部焼(おりべやき)】千利休の弟子で桃山時代の茶人「古田織部」(ふるたおりべ)の名に因んだやきもの。古田織部が好んで使つたり作らせたことからこの名で呼ばれる。
【焼成(しょうせい)】原料を高温で焼いて性質に変化を生じさせること。	

setoyaki style book

セトリエ Facebookはじめました。

瀬戸から生まれるやきもの生活。

瀬戸焼に関する情報を配信していくほか、「つくり手」と「つかい手」の交流や情報交換を行うページです。ぜひ、ご覧ください。

www.facebook.com/setolier


セト・ノベルティ：瀬戸で主に輸出用に製作されてきた陶磁器製の置物や装飾品などの総称

T.K NAGOYA DOLL
© DISNEY
MADE IN JAPAN

ノベルティ革命

戦後の瀬戸窯業を大きく支えた「セト・ノベルティ」。その技術の中でもドレスのドレープや繊細なレースなど、布の柔らかな風合いが本物のごとく見事に再現された陶製レースドールは、輸出先の国々で極めて高く評価されてきた。にもかかわらず、スベインのリヤドロ等との価格の差は桁違いに低いのが原因」と、TK名古屋人形製陶株の三代目・加藤範主社長は痛感していた。ブランド認知を素早く浸透させるには、幅広いファンを持つ有名キャラクターの使用ライセンスを取得し、「ウラ印」としてTKの名を刻印すること。二〇一〇年から始まったディズニーキャラクター人形の販売におけるウォルト・ディズニー・ジャパン社との契約では、それを必須条件とした。これまでのオーダーフォームを正確に再現ができる焼成技術など、先々代から受け継がれてきた高度な技“が認められ、新たな形で息を吹き返した。

「祖父と親父に感謝し、瀬戸で生まれ育ったこの財産を次世代へと継承するため、若手育成にも力を注いでいます」。

TK名古屋人形製陶株式会社 愛知県瀬戸市北松山町1-10 TEL: 0561-82-3723 http://www.tknweb.co.jp

セトリエさんと体験しよ！第一回 絵付け

いろいろなやきものづくり体験ができるとともに、瀬戸を訪れる楽しみのひとつ。古民家ギャラリーでのんびり、自分で器づくりにチャレンジしてみませんか？ やわらかな色合いと筆づかいの絵付けを教えてくれるのは、『工房ひづり』のデザイナー野村晃子さん。まず素焼きの生地に鉛筆で下絵、いわんと呼ばれるスポットで先から絞り出した化粧泥で輪郭を描いたら、約二〇色の絵の具から好きな色を選び、筆で花びらに色を重ねていきます。

絵ゴロゴロに自信が無くても、野村さんのにこやかな和み、トーケを楽しみつつ、細やかな指導のもと二~三時間ほどで仕上がり。おしゃべりやお茶を楽ししながらスローな時間を楽しみにきてみてね！

「Gallery もゆ」絵付け体験 ★予約制

- 単品コース（飯碗・湯呑・マグ・小皿 etc からひとつ）初回¥3,570 / 次回～¥3,150
- セットコース（飯碗・湯呑・マグ・小皿 etc からふたつ）初回¥4,515 / 次回～¥3,990
- お子様簡単コース（お子様の年齢にあわせたメニュー）¥2,730
- お問い合わせ・お申込み先
愛知県瀬戸市朝日町48-1 TEL: 0561-85-8100 E-mail: moyu@setomachi.com



「必要なのは、ブランド力だ！」と思つたんです」。